

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

ました(『近江日野の歴史』第4巻)。

学校としては廃校となりましたが、その建物は昭和13年に改築され、古材を再利用しつつ大字の会議所となりました。

この建物は、木造平屋建て、寄棟造の棧瓦葺で、正面の車寄せは唐破風となつています。部屋は8畳・12畳の2室が並び合わせて計4室で、明治14年7月と墨書された棟札が釘打ちされています。玄関の鬼瓦に「調和」の文字がみえ、かつての学舎の趣を今に伝えています。

〈旧調和学校 鬼瓦〉

大字上駒月

南比都佐地区の南端に位置する大字上駒月は、日野川の支流である砂川の最上流部の駒月谷に位置しています。

元々は下駒月とともに駒月または狛月(『蒲生文書』)という一つの村でしたが、分村するかたちで上下に分かれたといひます。村の成立は、中世までさかのぼり、伊勢神宮外宮の神領地を経て、江戸時代に仁正寺(西大路)藩市橋領となり幕末まで領主の変遷はありませんでした。

産業としての筵織り

上駒月の筵織りは、江戸時代の延宝年間(1673~1681)ごろより始まったとされています。

明治中期になると、生産農家が85戸で、年平均生産量が1戸あたり約600枚でしたが、やがて足踏み式一人織り機や製綿機が導入されると飛躍的に生産量が向上していきます。



〈上駒月筵織りの様子〉

かつては女性が筵織りを担っており、作業は午前中のみでしたが、縄ないなど夜なべもし、家事や農作業なども行うという生活を送っていました。多忙

その後昭和14(1939)年に、産業組合の筵倉庫、同16年には加工品などの備蓄倉庫を整備するなど、1戸あたりの年間平均生産量2000枚に対応するための施設が建設されました。

旧調和学校(現大字会議所)

調和学校は、明治6(1873)年6月に、佛號寺(上駒月)の茶室を仮の教室にしたのが始まりで、まもなく個人宅に移り、翌7年に正式に開校しました。独立校舎が必要であったため、明治14年9月に調和学校として新校舎の落成式が行われています(『大字上駒月文書』)。

その後、明治19年に甲賀郡尋常科大野小学校上駒月分教場を経て、同21年に簡易科上駒月小学校、同34年に南比都佐村内の学校が合併し開校した比都佐尋常高等小学校の上駒月分教場となり、昭和9(1934)年に廃校となり



学校という役割を終えた後も、地区の人々に大切に守り伝えられてきた旧調和学校の建物は、新たな役割を得て、後世の人々の集う場所となっています。

◆問い合わせ先

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

☎0748-52-0008



みんなのとしょかん



本の紹介

『ウィキペディアでまちおこし
みんなでつくる地域の百科事典』
伊達深雪 / 著 紀伊國屋書店

ウィキペディアタウンをご存知でしょうか。オンライン百科事典ウィキペディアの地域の歴史や文化財の項目を充実させて地域の魅力を発信する活動です。本書はその普及に活躍してきた著者が魅力と意義を紹介する一冊です。日野町でのウィキペディアタウンも触れられています。



行事予定

※行事・サービスは中止する場合があります。

- 『おはなし会』 2月3日(土)、10日(土)、24日(土)
10:30~(15分程度)
- 『おひざでだっこのおはなし会』
2月17日(土)11:15~(20分程度)
3歳くらいまでの親子を対象に絵本や手遊び、わらべうたなどをしています。
- 『託児サービス』 2月14日(水)、21日(水) 毎月第2・3水曜日
10:00~12:00 対象:0歳から3歳
- 『えいが会』
2月18日(日) 14:00~
『幕末相棒伝』 2022年/日本(100分)

図書館からのお知らせ

○ 視聴覚資料の返却について

図書館でCD、DVD、ビデオを借りていただくとき、緑色の専用貸出袋に入れてあります。この袋はCD等の破損を防ぐためのものですので、必ず袋に入れてご返却ください。また、ご返却の前には中身が入っているかどうかの確認をお願いします。

日野町立図書館

☎0748-53-1644 FAX 0748-53-3068

図書館の本は、お近くの公民館でも返却していただけます

2月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- …休館日
- …えいが会
- ◇…託児サービス
- …おはなし会
- …おひざでだっこのおはなし会

この度の能登半島地震により犠牲になられた方々に謹んでお悔みを申し上げるとともに、被災されました皆様、ご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当町の地震への対応についてお伝えしたいと思えます。1月1日は当町で震度4を観測したことから、警戒態勢を敷き、町内に被害等がないか確認を行いました。幸い被害等の報告がないことから、翌日は被災地の情報収集にあたり、3日の午前に幹部会議を開催、能登地方(七尾市)へのプッシュ型支援を決定しました。被災地を放ってはおけない気持ち一心での決定でした。

プッシュ型支援とは、発災当初は被災自治体において情報把握や支援要請に時間を要することから、

青雲之志

~町長コラム~

日野町長 堀江 和博

能登半島地震

国や県の要請を待たず、被災地に物資等を緊急支援することをいたします。現地の七尾市長と直接連絡を取った上で、3日の夜には先遣隊として役場職員2名が緊急物資とともに七尾市に向かい、翌4日にも追加支援としてさらに2名の派遣を行いました。5日以降は滋賀県が能登町支援の担当となったことを受け、県庁職員と合流し能登町に入り支援を行いました。その後刻々と状況が変化する中、七尾市からの追加要請に応じ1月中旬にはのべ6名の職員派遣を行ったところです。

なお、日野町を含む近隣2市3町で構成する東近江行政組合消防本部において、発災直後から緊急消防援助隊が派遣されました。余震も続く中、主に珠洲市に入り救出活動に従事されました。危険も顧みず活動に当たっていただいた消防隊の皆様には感謝を申し上げます。

被災地は今もなお厳しい状況が続いています。日野町は能登地方の被災者・被災地のためにできる限りの支援を引き続き行ってまいります。そして今回は大きな被害がなかった滋賀県ですが、明日はわが身です。さらなる防災対策に注力してまいります。